

○第1回ワーキング会議の意見等まとめ

発言者	大項目	問（旧）	問（新）	発言内容等	対応	議事録
芦田委員		表紙	表紙	対象者を児とするのか者とするのか調査の中では明確にしてい くものであるが、18歳未満をどのように扱うのか。	対象者を18歳以上とし、調査タイトルから（児）を削除します。 表紙に18歳以上を対象とする旨を追記します。	P.3、P.4
島田委員		表紙 はじめに	表紙 はじめに	介助者という表記を支援者という表記でもいいのではないか。	介助者表記を支援者表記に変更します。	P.36
芦田委員	属 性	—	9	生活保護かどうかという形ではなく、収入源はどうなっている かという問い方はどうか。	収入を尋ねる設問を策定します。	P.12
澤委員				退院するかどうかは別としても、生きるためにお金がどこから 来るのかは聞いておくべき。		P.14
関山先生				生活保護かどうかは尋ねなくてよいのか。		P.9
澤委員	入 院 前 の 生 活 状 況	10	11	一般病院からの転院や、治療などで転院し帰ってきた方もいる ため、選択肢に病院を追加が必要ではないか。	選択肢4に「別の病院」を追記します。	P.17
芦田委員		12	13	選択肢が住むところと、何をしているかが一緒くたになっている。 選択肢としてデイケアや障がい福祉サービスも入れてはどうか。	選択肢1、選択肢2の表現を修正します。 選択肢3に「デイケア」を追記します。 選択肢5に「福祉的就労」を追記します。	P.21
澤委員				選択肢にデイケアや作業所に行っていたとの項目の追加を検討いた だきたい。		P.17
島田委員				選択肢として福祉的就労についても触れてはどうか。		P.20
—	入 院 状 況	13	—	—	対象予定病院の所在地がすべて大阪市外となるため、事務局で不要 と判断し、削除します。	—
澤委員		14	14 15	過去1年の地域定着日数という概念を用いて、入院期間を尋ねる聞き方 にしてはどうか。	問14の設問内容を過去1年間の入院期間の合計を問う内容に修正します。 問15で今回の精神科病院に入院している期間を尋ねる設問を策定します。	P18
たにぐち委員		—	16	1年に3、4回以上入退院を繰り返されている方は地域移行に成功し ている方だとは思えない。本調査の対象として良いのではないか。	入院回数を尋ねる設問を、過去1年間を尋ねる設問内容に修正しま す。	P13
澤委員		16	18 19	看護師などに手伝いを受けることがあるかを尋ねてはどうか。 高齢者施設に入所してから医療が受けられるのか。	問18に看護師等から手伝いを受けることがあるか尋ねる設問、 問19に現在受けている医療的ケアを尋ねる設問を、 問21に活動状況を尋ねる設問を策定します。	P18 P25
たにぐち委員			21	身体障がいではないが困難がある人はどのように把握するの か。		P16
芦田委員		17	20	面会交流から、交流という言葉が消してはどうか。	設問内容から、交流を削除します。	P21

発言者	大項目	問（旧）	問（新）	発言内容等	対応	議事録
関山先生	入院状況	18	22	選択肢2の「このまま入院し続けたい」ではなく、「今のところは考えていない」という選択肢はどうか。	選択肢2「今のところは退院について考えていない」、選択肢3「入院を続けるしかない」に選択肢を整理します。 問24で「入院を続けるしかない」と考える理由を尋ねる設問を策定します。	P21
島田委員			24	選択肢3の「地域での生活をイメージできないのでわからない」に「退院したい意欲はあるが」等の付け足しはどうか。 入院せざるを得ないと思っているとの選択肢も追加してはどうか。		P20
島田委員	（旧 退院について）	21	25	退院後どこで暮らしたいのか、誰と暮らすのかを項目わけしてはどうか。	設問内容と選択肢を整理します。	P28
関山先生				選択肢6にある「施設で暮らしたい」を、「何らかの支援があるところ」ではどうか。	選択肢4に「支援のある施設で暮らしたい」を追記します。	P30
関山先生		—	26	退院後の生活の希望を尋ねる際に、入院前と同じような状況か尋ねる設問を入れてはどうか。	退院後の生活の希望が入院前と同様か尋ねる設問を策定します。	P22
澤委員		20 23	27	選択肢5「家族の理解のこと」を家族との関係と聞いてはどうか。 安心して過ごせる場所があるかというのは退院要因としては大きいのではないかと思うので、選択肢として追加を検討いただきたい。	選択肢5を「家族との関係のこと」に変更します。 選択肢10に「住まい以外の安心して過ごせる場所のこと」を追記します。	P18 P25
澤委員		24	28	高齢者が退院後、包括的な医療的ケアが受けられるのか、現在の選択肢11「地域で必要な医療やケアを確実に受けられること」では拾いきれないのではないか。	選択肢3に「就労支援を利用すること」を追記します。 選択肢4と選択肢5をまとめ、選択肢4とします。 選択肢5に「通学、通勤時の同行支援」を追記します。 選択肢8に「入院中と同じ医療やケアを受けられること」に修正します。	P25-27
関山先生				就労への訓練をしてほしいという項目を追加してはどうか。		P25
たにぐち委員				学校や通勤への支援を受けることを選択肢がないため追記を検討いただきたい。 選択肢4の「外出支援」と選択肢5の「通院支援」を一選択肢に、「通学」、「通勤支援」を一選択肢に整理してはどうか。		P24
島田委員		—	29	退院したらしてみたいことを尋ねる設問を設けてはどうか。	退院したらしてみたいことを尋ねる設問を策定します。	P35
関山先生	相談について	25	30	設問にある、「相談」が何を指しているかわかりにくいので何を指しているのか明記してはどうか。	相談内容がわかりやすいよう、退院に関する不安や具体的な準備についてを設問内容に文言追加します。	P32
たにぐち委員				相談内容について、どんな相談をしているかということは明記してほしい。		P34
芦田委員		26	31	相談相手に友人を追記してはどうか。	選択肢2に「友人」を追記します。 選択肢5「障がいサービスの支援者」に修正します。	P31
澤委員				選択肢4「障がい者相談支援事業所の職員」と選択肢5「障がい者福祉サービス事業所の職員」の違いがわかりにくいため、一項目としてはどうか。		P31
たにぐち委員				選択肢4「障がい者相談支援事業所の職員」と選択肢5「障がい者福祉サービス事業所の職員」の区別がつかない当事者が多い。一緒にしてはどうか。		P31